

平成21年度

自然再生モデル林内動物生息状況調査取りまとめ報告書

中赤石山国有林2060い1林小班内



津軽白神森林環境保全ふれあいセンター

1. はじめに

津軽白神森林環境保全ふれあいセンターでは、昨年度、奥赤石川林道沿いの中赤石山国有林2060い1林小班を「自然再生モデル林」とし(設定面積0.91ha)、モデル林内に3プロット(10m×30m)を設けた。

- ・Aプロット：スギの生長が良好であり、下層に灌木類が侵入している。
- ・Bプロット：スギの生長はやや不良であるものの、下層に灌木が生育し随所に高木性の広葉樹が侵入している。
- ・Cプロット：スギ植栽木がほぼ消滅し、広葉樹の侵入も僅かであるが、高木性の広葉樹が所々に生育している。

以上の3プロットの林分調査(昨年度実施済)を行い、今後抜き切りや植栽等を行うことにより、将来的に広葉樹林に戻すことを考えている。

2. 動物生息状況調査を行うこととした背景

まず、スギ人工林内の高木性広葉樹が、今後どのように生長していくかの調査は、長い年月がかかるため、その前段として「自然再生モデル林」周辺にどのような小動物が生息しているかを調査することとしたもので、抜き切り等を行うことによって、その影響がどう現れてくるのかも検証していく予定である。

3. 調査回数等

今年度は、年3回調査(6月中旬・7月下旬～8月上旬・10月中旬～下旬)し、3プロットの定点に、誘因物としてサバ水煮、バタピーを置いて調査を行った。

◎「自然再生モデル林」各プロットの林況(スギ及び高木性の広葉樹のみ) 伐採前

Aプロット

(アズキナシ2本・イタヤカエデ9本・スギ52本・ハリギリ1本・ブナ3本・ホオノキ59本・ミズキ4本・ミズナラ21本=8種、151本)

Bプロット

(アズキナシ3本・イロハカエデ1本・エゾイタヤ4本・スギ48本・ハウチワカエデ1本・ブナ1本・ホオノキ97本・ミズキ9本・ミズナラ4本=9種、168本)

Cプロット

(イタヤカエデ1本・キハダ19本・サウグルミ5本・トチノキ2本・ハウチワカエデ3本・ハクウンボク1本・ホオノキ39本・ミズナラ1本・ヤマモミジ1本=9種、72本)

以上のほか、ウワミズザクラ・コシアブラ等の低木や下層植生として、オオバクロモジ・リョウブ等が見られる。

なお、伐採前に2回動物生息状況調査を実施し、第3回調査前の10月14日～15日にかけて、A・Bプロットのみ、1列5m×10mの2列(スギのみ)を抜き切りした。

◎伐採前林況写真（Aプロット）



ブナ稚樹



イタヤカエデ稚樹



◎伐採前林況写真（Bプロット）



ミズナラ稚樹



ホオノキ稚樹



